

第三十七回帝國議會 華族世襲財產法改正法律案委員會會議錄(速記)第二回

會議

大正五年二月十八日午後二時開議

出席委員左ノ如シ

古屋 慶隆君 今井 喜八君 金澤 仁作君
尾越 辰雄君 飯塚 彌一郎君 岸本 賀昌君
米田 實君 三津家 傳之君 政尾 藤吉君
佐藤榮右衛門君 加瀬 禧逸君 阿部 德三郎君

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣 尾崎 行雄君

出席政府委員左ノ如シ

司法省參政官 田川大吉郎君 司法省法務局長 豐島 直道君
法制局長 高橋 作備君 法制局參事官 馬場 鏌一君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

司法省參事官 山内權三郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

華族世襲財產法改正法律案

○委員長(古屋慶隆君) 是ヨリ開會致シマス

○政府委員(法學博士高橋作備君) 此世襲財產法ノ御審議ニ相成リマス前ニ、チヨット御願ヒ致シタイコトガアリマス、致シタイコトガアリマスノハ、本法ハ非常ニ複雑ナル法案デアリマシテ、民法トノ關係又訴訟手續等ニ就テ餘程込入ッタル所ガアリマス、就キマシテハ此案ノ改正上ニ就テ、調査ニ從事シテ居ラレマシタ司法省參事官山内權三郎氏ノ出席ヲ御許シテ願ヒタイ、而シテ極ク専門ノコトニ關シテハ御答辯スルト云フコトニ願ヒタイと思ヒマス

○委員長(古屋慶隆君) 如何デスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(古屋慶隆君) 御異議ガナイモノト認メマス

○阿部德三郎君 此際政府ニ御尋シマスガ、本案ニ對スル貴族院ノ修正ニ對シテハ、政府モ御同意ニナッテ居ルヤウニ承ッタルデアリマスガ、先ヅ此本案ノ內案ニ就テ疑義ノアル點モアリマスガ、ソレハ追々御尋スルコトト致シマシテ、本會議ノ際ニモ望月長夫君ヨリ御尋モアリマシタ華族世襲財產法ト云フモノヲ一般ノ人民ニ及ボシテ、一般ノ人民ニモ世襲財產法ト云フモノヲ布イテハ如何ナモノデアルカ、近來社會問題ト云フモノモ大分ヤカシクナッテ來テ居ルノデアル、デ現ニ政府ハ簡易保險ノ如キモノニ於テスラ、尙社會政策ニ資スル所ガ大ナリト言ハレテ居ルノデアリマス、デ社會政策ニ心ヲ用井ラルル政府トシテハ、一般ノ人民ニモ世襲財產法ト云フモノヲ設ケラレマシタナラバ、非常ナル利益デアラウト本員ナドハ考ヘルノデアリマス、デ無論本案ハ華族ノ世襲財產法デアッ

テ、格別ノ問題デアルト云ハレルカモ存ジマセスケレドモ、免二角今日社會問題ノヤカマシキ時節ニアリマシテハ、此點ニ就テ政府ハ大ニ考慮スルノミナラズ、又進シテソレ等ノ立案モセラル、ガ寧ロ相當ナルコトデハナイカト本員ハ考ヘルノデアリマス、然ルニ單ニ此華族ニ對シテノ此改正ヲ提出シ、而シテ一般ノ人民ニソレ等ノ規定ヲ設ケルコトニ就テ、御考慮ノナイノハドウ云フ譯デアルカト云フコトヲ、詳シク御説明ヲ願ヒタイ

○政府委員(法學博士高橋作備君) 華族以外ノ一般ノ人民ニ對シテモ家產法ヲ設ケルト云フコトハ必要デアル、斯ウ云フ御考ヨリシテ、家產法ヲ政府ガ制定スルト云フコトヲ爲サズシテ、華族世襲財產法ノミヲ改正スルト云フノハドウ云フ譯デアアル、斯ウ云フ御尋ノヤウニ考ヘマスガ、勿論政府ニ於テモ一般ノ人民ニ家產ノ制度ヲ設ケルト云フコトニ就テハ研究ヲ怠ッテ居ルノデハゴザリマセヌ、サリナガラ一面ニ於テ一般ノ人民ニ關シテ華族ノ世襲財產法ノ如キ、或ル意味ニ於ケル不融通物ト云フヤウナモノヲ定メルト云フコトハ、果シテ社會ニ利益デアアルカドウカト云フコトハ慎重ニ研究シナケレバナラヌコト、思フ、要スルニ一般ニ對シテ家產法ヲ設ケルト云フコトノ研究ヲ爲スベキモノデアルト云フコトハ、政府ハ適切ニ又誠實ニ考ヘテ居ルノデアル、必要ト云フコトハ認メテ居ル、サリナガラ此華族世襲財產法ニ關シマシテハ、其法律ガモウ既ニアルノデアリマス、明治十七年華族ノ制度ヲ立デラレ而シテ十九年ニ華族世襲財產法ヲ制定セラレマシタ、爾來三十餘年ヲ經過致シテ居リマスルガ爲メニ、世ノ事情ト云フモノモ變化致シマシテ、又法文ニ現レテ居ル文字モ現行ノ法典ニ副テ居ラヌト云フヤウナ所モアルト云フ次第デゴザイマス、此改正ハ一日モ忽ニスルコトノ出來ナイト云フ特別ノ事情ガゴザイマシタ所カラ致シテ、既ニ帝室制度調査局ヲ設ケラレマシタ、即チ約十二年以前ヨリ此改正ト云フコトヲ認メテ案ガ出來テ、既ニ內覽ニマデ供シテ居タト云フコトデゴザイマス、其後ニ又皇室令制定委員會ニ於キマシテ、其前ノ案ヲ根本ト致シマシテ更ニ一ツノ案ヲ作り、爾來其研究モ怠ラズ繼續致シマシタガ、遂ニ今日ニ至リマシタ次第デゴザイマス、此改正ノ必要ト云フモノハ餘程前カラ認メラレ、現ニ此前ノ特別議會ノ際ニモ一度提出シテ見タト云フ位デアリマシタノデ、差當リ此ニアリマスル法案ノ改正ハ、一刻モ忽ニスルコトノ出來ナイ意味デアラマシタ、併シ此案ガ出來タ爲ニ家產法ノ制定ヲ否認スル譯デアゴザイマセヌ、是ハ家產法ノ制定ニ關シテ頗ル重大問題デゴザイマスカラ、此研究ハ御説ノ如ク實ニ忽ニスベカラザルモノト思ヒマス、故ニ是ハ別途ニ研究シタイト云フ考デアリマス

○阿部德三郎君 華族世襲財產法ノ施行サレテヨリ既ニ二十年、其間ニ於テ政府ハ長キ經驗ヲ積マシテ、尙此必要ヲ認メラレテ改正案ヲ提出サレタト云フコトデアアル、而シテ一般ノ人民ニ對スル家產法ニ至ッテハ政府ハ大ニ考慮ヲ要シ、調査ヲシツ、アルガ如ク仰セラレマスルガ、ソレハ實際調査ヲサレテ居ルノデアリマスルカ、唯事ガ重大デアアルカラ將來大ニ研究シヤウト云フデケノコトデアリマスガ、尙一應其點ヲ確メテ置キタイと思フノデアリマス

○政府委員(法學博士高橋作備君) 家產法ノ制定ノ必要デアルカ否カト云フコト

ハ、此現行法即チ華族世襲財產法ガ十九年ニ制定セラマシタ當時カラ研究サレテ居ルノデアリマス、其當時モ華族バカリニ限ラズ、家産法ヲ拵ヘヤウト云フ意見サヘアリマシタノデ、ソレハ其當時問題ノ起リガ華族令ガ出來マシテ、而シテ華族ガ皇室ノ藩屏デアルト云フコトカラシテ、恆産ト云フモノヲ華族ニ備ヘテ置クト云フ必要カラ問題ガ起ツタノデゴザイマスカラ、家産法ノコトハ後ニ問題ニスルト云フコトニシテ、其時一緒ニハ制定シナカッタデアアル、此度改正案ヲ提出スルニ當ツテ家産法ノ問題ハ自ラ別デアアルケレドモ關聯シテ研究致シマシタノデ、即チ華族世襲財產法ノ參考トシテ瑞西民法ノ第二篇親族第二章親族法第九節ノ華族ノ共同生活ト云フヤウナ條文、瑞西民法ノ二百四十九箇條以下ノ條文等ニ於テ、緻密ナル研究モ致シ、又獨逸ノ諸聯邦ニ於ケル家産法ノコトモ細カニ研究シマシタ、而シテ華族世襲財產法ト似寄ッタヤウナ法律ガ外ノ國ニアルマイカト云フコトヲ研究致シマシテ、而シテ之ニ似寄ッタ例ハ「バワリヤ」ニ一ツアルノデアリマス、是ハ斯ウ云フ工合ニナツテ居リマス、ツマリ「バワリヤ」ニ於テハ千八百十八年ニ設ケタ家産法一般普通ノ家産法ガアル、所ガソレハ今日デハ一般人民ニ對シテ家産法ト云フヤウナ適用ヲシナイデ、唯其家産法ヲ貴族ニ適用スルト云フヤウナ工合ニナツテ、實際ニ於テハ家産法ノ名義ハアリマスケレドモ、其華族タケガ世襲財產ヲ設置スルト云フ實際例ニナツテ居ルト云フヤウナ所マデ研究致シマシテ、此研究ト云フモノハ唯普通ニ申シマスルト調査中ニアルト云フ意味デ申シタノデアリマセヌ、眞面目ニ研究致シマシタ、尙此研究ハ引續キ致シマスル積リデゴザイマス

○政尾藤吉君 委員長

○委員長(古屋慶隆君) チョット御待チ下サイ、今政府委員ガ大體ノ説明ヲヤリタイト云フ御話デゴザイマスカラ、大體説明ガ濟ンデカラ……

○政府委員(法學博士高橋作衛君) 此法案ハ極メテ複雑デゴザイマスカラ、現行法ノ制ト提出案ト貴族院ノ修正案ト、一々比較シテ申上ゲマスルト云フコトハ頗ル困難デゴザイマス、サリナガラ能ク見マスルト云フト綱領ヲ分ケテ申セバ——之ヲ簡短ニ申上ゲヤウト思ヒマスカラシテ、此法文ノ順序ニハ依リマセヌ、此三案ノ比較ヲ簡易ニ申上ゲテ大體ノ説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、第一ニ於キマシテ此華族世襲財產法ノ制定ノ主體ハ何デアリマスカタ云フコトニ就テ、比較ヲ取ツテ見マス、現行法デハ有爵者デアルト云フコト、竝ニ有爵者其者デナクテモ、遺言ニ依レバ未成年者デモ出來ルト云フコトニナツテ居ルノ、政府提出案ハ有爵者ニ限ル、未成年禁治產者準禁治產者ハ除イテアル、而シテ貴族院ニ於テハ之ヲ修正シテ有爵者其他未成年禁治產者準禁治產者デモ設定スルコトガ出來ルト云フコトニ致シタノガ、此三者ノ主眼デゴザイマス、第二ノ點ニ於テハ申請者ノコトデゴザイマスガ、申請者ハヤハリ現行法ニ於テハ有爵者デアアル、ソレカラ遺言ニアツタ場合ニハ未成年者モアリマス、ソレガ政府ノ提出案ハ有爵者デアアル、然ル所貴族院ハ此提案ニ關シテ大ナル修正ヲ加ヘタノデアリマス、根本ニハ觸レテ居リマセヌケレドモ申請者ノ數ガ殖エテ來タ、即チ本人法定代理人其保佐人、或場合ニハ家政協議人管理財產ノコトニ就テハ管理人、斯ウ云フヤウニ貴族院ノ修正デハ設定ノ申請者ガ殖エテ來タ次第デゴザイマス、ソレハ設定ノ資格ガ殖エタル結果當然ノコト、思フノデアリマス、第三ノ點ニ付テハ華族世襲財產設定ノ容體、ソレハ何デアアルカト云フコトニ

就テハ第二章ニ分ケテ申上ゲタイ、現行法ニ於テハ財產其モノニ就テハ種類ヲ三種ニ分ケテ、第一種第二種トシテ其外ニ附屬家實ノ如キモノヲ入レタ、然ルニ此種類ノコトニ就テハ政府ノ提出案ヲ貴族院デハ之ニ修正ヲ加ヘマセヌカラシテ、種類ヲ撤廢シタコトニナツテ居ル、而シテ財產ニ就テハ限度ハドウ云フモノデアアルカト云フコト、現行法ニ依ルト純收益五百圓ト云フコトヲ最低限度ニ致シテ居ル、最低額ニ致シテ居ル、然ルニ政府提出案ハ明白ニ此限度ヲ申シテ居リマセヌ、他ノ財產ヲ調ブルコトヲ得ルト云フコトガアルガ、其高ハ條文トシテハ何等明言シタ所ガアリマセヌ、ソレニ貴族院ハ如何ナル修正ヲ加ヘマシタカト云フコト、第一條ニ於テ資格ヲ維持スルニ必要ナル範圍内ト斯ウ云フコトニ修正シタノデアリマス、ソレカラ設定ノ效果ニ就テ簡單ニ申上ゲマスルナラバ、現行法デハ設定サレタル所ノ世襲財產ナルモノヲ廢止スルコトハ出來ヌト云フコトデアッテ、唯收益ノ二分ノ一ダケヲ差押ヘルコトダケハ出來ルト云フ規定ガアリマシテ、ソレガツマリ例外ニナツテ居リマスケレドモ、現行法デハ廢止スルコトガ出來ナイト云フコトヲ政府提出案デハ廢止スルコトヲ得ルト云フコトニ致シマシタガ、貴族院ノ修正ハ一部ヲ僅カ修正シマシタガ、ヤハリ廢止スルコトヲ得ルト云フコトニ修正シマシタ、而シテ之ニ伴フテ廢止セラレタル所ノ財產ノ管理ト云フコトニ就テモ、現行法ニ無イモノガ政府提出案ニハアリマス、之ニ就テハ貴族院ノ修正ハ餘リ澤山加ツテ居リマセヌ、而シテ現行法ニ無イモノデ政府提出案ニ加ツタモノハ、永小作權地役權ト云フヤウナモノガ加ツタ次第デアリマス、而シテ貴族院ガ政府提出案以外ニ新ニ入レタ主ナルモノハ家政協議員會ヲ拵ヘタト云フコト、ソレカラ華族世襲財產ノ審議會ト云フモノヲ加ヘタノガ新シク加ヘタ修正デアリマス、是ガ大體ニ於テ現行法政府提出案、ソレカラ貴族院修正ノ比較デゴザイマスガ、要スルニ貴族院ニ於テハ總テノ條文ニ對シテ修正ヲ加ヘタヤウデアリマセヌケレドモ、政府提出案ノ根本ニ觸レテ居ルコトハサウアリマセヌノデ、唯世襲財產ヲ設定スル主格ニ付キマシテ、未成年者或ハ禁治產者準禁治產者ヲ入レタト云フコト、先ヅ主ナル違ヒデアラウト思ヒマス、ソレカラ新ニ加ヘタル家政協議員會ト云フモノハ政府提出案ニハアリマセヌケレドモ、一面カラ見マスレバ現行法ニ於テ親族會ヲ認メテ居リマスカラ、寧ロ元ニ還ツタモノト見ルコトヲ得ル、併ナガラ貴族院ニ於テ新ニ修正トシテ加ヘタルモノハ、華族世襲財產ノ審議會ヲ加ヘ申請者ノ數ヲ加ヘタト云フヤウナコトデゴザイマシテ、條文ヲ見マスレバ非常ナ大修修正ヲ加ヘタガ如クデアリマスケレドモ、能ク見マスレバサウ大シタ修正ハナカッタト言ハナケレバナリマセヌ、故ニ政府ニ於テハ政府提出案ヨリモ緻密ナル研究ヲシ緻密ナル條文ヲ設ケタ此修正案ニ同意ヲ表シタト云フ次第デアリマス、尙細カイ點ニ付テハ御尋ニ依テ政府委員ヨリ答辯ヲ致シマス

○法學博士政尾藤吉君 私ハ此法律案ハ衆議院ノ立場カラ見マスルト、主ニ華族ノ世襲財產ト云フモノヲ造ルト云フコトハ、華族ノ財產ガ一般社會ノ財產ノ一部分デアルトシテ見タトキニハ、其財產ノ融通力ヲ制限スル點ニ於テ、財產ニ對シテ二者ガ例ヘバ或權利ヲ持ツテ居ル、其權利ニ對抗セシメルト云フヤウナ場合ニ於テ、ドレダケノ影響ヲ及ボスカト云フコト、ソレカラモウ一ツハ財產ヲ持ツテ居ル一般ノ人民ト云フモノヲ何處マデ此家産制度トカ世襲財產制度トカ云フ制度ガ認メルカ、何處マデ保護ヲ受クベキモノデアアルカ、此二點ニ就テ主ニ研究スベキデアラウト思フノデス、ソレデ私ハ此二點

ニ就テ政府ニ御尋シタイノデス、一ハ華族が皇室ノ藩屏デアルト云フ趣意カラシテ、ソレ
デ皇室ノ藩屏タル所ノ華族ハ恆産ヲ持ッテ居ラネハナラス、恆産ヲ維持セシムルタメニ華
族ノ財産ノ一部分ヲ取ツテ、ソレノ融通力ヲ制限シテ、サウシテ世襲財産トスル、斯ウ云
フコトデアリマスルケレドモガ、忠君愛國ト云フコトハ必シモ華族ノ「モノボリー」デハナイノ
デ、人民モヤハリ華族ト同様ニ忠君愛國ノ念ヲ持ッテ居ルノデアル、其點ニ於テハ人民モ
ヤハリ華族ト同様ニ皇室ノ藩屏デアル、ソレデアッテ見レバ人民デモ恆産ヲ持ッテ居ル所ノ
モノハ、其一部分ヲ割イテ、サウシテ永久ノ世襲財産ノ設定ヲ許シテヤルト云フ必要
ハナイカ、事實ニ於テ考ヘテ見マスルト云フト、今日有爵者デモ極ク僅カノ財産ヲ持ッテ
居ル者モアリ、又爵ノ無イ者デモ随分大キナ財産ヲ持ッテ居ル者モアル、ソレデ財産ノ融
通力ヲ減ズルト云フ點カラ考ヘマス、一般人民ノ家産法ト云フモノヲ作ッテ、ドノ階級
ニモ此制度ヲ及ボスト云フコトハ、私ハ採ラヌノデアリマスルケレドモ、ソレハ採リマスガ或
程度ノ人民ハ政府ニ於テ特ニ華族ト同様ニ認メラレテ、此法律ノヤウナ法律ノ特別ノ
保護ヲ受ケルト云フ利益ヲ得サシムルト云フ必要ハナカラウカ、例ヘバ多額納稅者ノ如
キハ、隨分實際ニ於テ或種ノ華族有爵者以上ノ財産ヲ持ッテ居ル者ガ往々アルノデア
ル、ソレデアアルカラ此法律ノ主格ヲ單ニ有爵者トセズ、有爵者及多額納稅者トカ、或
ハ一萬以上トカ、二萬以上トカノ國稅ヲ納メル者トカ云フ風ニ擴張スルト云フ考ハナイ
デアラウカ、ソレヲ御尋致シマス

○政府委員(馬場鑛一君) 唯今ノ御質問ニ對シテ、御不満足トハ存ジマスガ一應
私カラ御答致シマス、世襲財産ノ制度ヲ華族以外ノ多額納稅者ノ如キモノニ擴張シテ
ドウカト云フ御質問ノヤウニ考ヘマスルガ、御説ノ如クニ能ク詳クハ存ジマセヌケレドモ、
普魯西アタリノ目下草案デアルサウデアリマスルガ、世襲財産ノ制度ノ如キハ、丁度御
説ノヤウニ貴族並ニ相當ノ大キナ地主ト云フモノニ就テ、世襲財産設定ノ必要アリト
云フコトカラ立案サレテ居ルヤウデゴザイマス、サウ云フ精神即チ世襲財産ノ根本ノ精神
カラ見マシタラバ、或ハ御説ノヤウナコトモ至當ノ理由デアルカト存ジマスルシ、更ニ又
進ンデ先程御説ノアリマシタヤウニ、他ノ一般人民ニ就テモ外國ノ家産制度、或ハ家産
制度ニハアリマセヌガ所謂世襲財産制度ト云フモノヲ設ケルト云フコトモ、是ハ唯今法
制局長官ノ述べタ如ク餘程研究シテ相當ノ解決ヲ爲スベキ問題トハ考ヘマス、併ナガラ
今日ノ所デハ御承知ノ如クニ、華族ガ免ニ角社會上特別ノ地位ヲ有ッテ居リマシテ、且
此明治十七年ノ華族令制定當時ノ詔勅等ニ依リマシテモ「華族勳貴ハ國ノ瞻望ナリ
宜シク授クルニ榮尊ヲ以テシテ用テ寵光ヲ示スヘシ」ト云フヤウナコトデ、特別ニ優遇ヲ皇
室カラ與ヘラレテ居ルト云フコトデ、先ヅ日本ノ社會トシテハ特別ニ一ノ地位ヲ有ッテ居ル
ト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ唯今御説ノアリマシタヤウナ、此制度ヲ他ニ廣メ若ク
ハ一般ノ家産若クハ世襲制度ヲ設ケルトハ、無論研究スベキ問題デアリマスガ、免ニ
角今日ノ華族世襲財産制度ト云フモノガアッテ、其制度ガ非常ニ古クテ、差當リ常ニ
不便ヲ感ジテ居ルト云フコトデ、先ヅソレカラ解決シテカ、リ、之ヲ解決シテ此改正ノ實施
等モ多少見マシテ、而シテ今ノ御説ノ如キ問題ニ付十分ナル解決ヲシタイト云フ考ガ
アッテ、此ニハ唯華族世襲問題ガ提出ニ相成タコト、存ジマス、或ハ答辯ニナッテ居
ラヌカ知レマセヌガ、一應是ダケ申上ゲテ置キマス

○法學博士政尾藤吉君 此改正案ハ唯是マデノ法律ニ定メラレテ居ルトコロノ世襲
ニ爲シ得ベキ財産ノ種類ノ擴張ト云フコトガ重ナル點ト思ヒマス、其他ニ是ト云フ改正ノ
點ハ私ハ見出サヌノデアリマスガ、ドウモ改正ヲスル必要ガアルト云フコトヲ感ジテ、手ヲ著
ケル位ナラバ多額納稅者ノ如キハ既ニ今日貴族院ノ議員ヲ出ス資格ヲ與ヘラレテ居ル位
デ一種ノ貴族デアアル、彼等ノ社會ノ地位ヲ認メルト云フ趣意ニ於テモ甚ダ好マシイコト
デアラウト思フ、且彼等ノ造リ上ゲタルコロノ財産ノ一部分ヲ、永久ニ存續セシメテ置
クト云フ上ニ於テ極ク社會政策トシテモ宜イコトデアアル、是ハ若シ今御出席ニナッテ居ル
政府委員デ御返答ガ出來ヌナレバ、關係ノ大臣ニデモ出席シテ貰ラウテ、サウシテ政府
ノ所見ヲ聽キタイト思ヒマス

○委員長(古屋慶隆君) チョット政尾君ニ御尋致シマス、關係ノ大臣ト云フハ司法
大臣デアリマスガ

○法學博士政尾藤吉君 司法大臣ガ今見エテ居ッタ答ダガ……

○委員長(古屋慶隆君) チョット司法大臣ニ通知シマスカラ暫ク御待チヲ願ヒマス
○米田實君 政府ハ高等ノ資產家即チ物持ハ、華族世襲法制定當時ハ華族ダケト
云フ趣意デアツダガ、其後時代ノ變遷デ日清日露戰爭ノ當時有益ナル公債ヲ募リ、國
債證券ヲ發行スルト云フコトニ付テハ、有力ナル實業家等ニ於テ多ク勸誘シテ、サウシテ
公債國債證券ナド、云フモノヲ募集サレテ居ル、斯ル人ハ國家ニ功勞アルモノシテ或ハ
位階ヲ授ケラレ勳等ヲ授ケラレタル者モアル、單ニ華族ノ爵ヲ授ケラレヌガ同様ノモノニ
過ギナイ、斯様ナ人ト前々ヨリ華族ノ爵位ヲ有シテ居ルガ一向世ノ中ニ勳キモセヌト云フ
人ト、何レガ重イト云フコトニ付テ政府ニ於テハドウ見テ居ラレカ、此點ニ付テ政府ノ
所見ヲ伺ヒタイ

○政府委員(馬場鑛一君) 華族ト金持ト何方ガ重ク見テ居ルカト云フ御質問ノヤウ
ニ考ヘマスガ、是ハ重イ輕イト云フ問題デ御答スルコトモチヨット出來ヌヤウニ考ヘマス、華
族ハ縱令金ガ無クとも華族トシテノ相當ノ待遇ヲ與ヘラレテ居リマス、金持モ必ズシモ金
ガ非常ニアルカラト云フ社會ガ之ヲ重シテ居ルト云フコトニモ考ヘラレマセヌ、デ政府ハ
何レガ重イ輕イト云フコトニ付テハチヨット御答ガ出來ル問題デハナイヤウニ考ヘマス
○米田實君 ソレナラバモウ一ツ伺ヒタイ、何方ガ重イ此方ガ輕イト云フコトハ認メ
ラレヌカ知レマセヌガ、少クトモ斯カル功勞ノアル人ハ、或ハ其功勞ニ依ッテ華族財産法ヲ
設定スルトキニ華族相當ト認メテヤッテ宜カラウト思フ、然ルニ之ヲ認メズ華族ダケニ限
ルト云フノハドウ云フ譯デアアルカ、先刻カラノ説明ヲ聽イテ見ルト現在ノ華族財産世襲
法ト云フモノガアル、是アルガ故ニ之ヲ更ニ改正スルト云フダケノ外理由ガ無サウニ思ハ
レルガ、果シテ政府ハ是ダケデ外ニ改正ノ必要ヲ認メナイト云フコトデアリマスガ、之ヲ伺
ヒマス

○政府委員(馬場鑛一君) 唯今ノ御質問ハ華族以外ノモノニ斯ウ云フ制度ヲ認ム
ルコトニ付テ、ドウ考ヘテ華族世襲法ニ手ヲ著ケタカト云フ御趣旨ノヤウニ考ヘマスガ、ソ
レハ先刻申シタ通り、此世襲制度ヲ華族以外即チ或金持社會トカ、或ハ更ニ進ンデハ
必シモ富豪ト申ス程デモナイ一般ノ人民ニ及ボスヤ否ヤハ、是ハ餘程問題デアラウト考ヘ
ルノデアリマス、ソレデ其研究ハ餘程慎重ニ致シマセヌト先程チヨット例ニ申上ゲマシタ普

魯西ノ世襲制度草案ノ如キニ付テモ、イロ／＼未ダ研究ノ餘地ガアルト云フコトヲ向フノ學者モ言フテ居ルサウデアリマス、又日本トシテハ單ニ今日金持ガ社會ニ跋扈スルト云フコトハ、勿論社會一般ガ好マストコロデアリマスカラ、富豪トカ富豪ト云フマデノモノデナイ者ニ對シテ、ドウ云フ制度ヲ作ッテ宜イカ、或ハ外國ノ家產制度ハ直チニ之ヲ應用スルコトガ出來ナイコトモ分リマスカ、同時ニ外國ニ立テ、居ル世襲財產ノ制度ト云フモノハ、之ヲ以テ直チニ日本ニ適用シ得ルカ、此點ニ付テモ餘程ノ疑ガアルヤウニ考ヘルノデアリマス、ツレ故ニ其一般問題ノ研究ヲ懈シテハナラヌデアリマス、其點カラ研究ガ積ミマセヌケレバ容易ニ今日ノ華族世襲財產制度ヲ改正スルト云フヤウナ、手數以上ノ手數ヲ經ヌケレバ出來ヌコト、考ヘテ居テ、先ヅ現在ノ制度ノ不備ヲ補フ、現在ノ華族世襲財產制度ノ缺點ヲ改正シタイト云フ趣意ヲ以テ、差當リ手ヲ著ケタデアリマス、此點ハ何遍モ繰返シテ御答シタ點デアリマス

○阿部徳三郎君 チョット内容ニ入ッテ御尋ラシテ見ヤウト思ヒマス、制定ノ主義ニ付テ政府ニ御尋ラシタイ、本案ハ申請主義トデモ云ヒマスカ、要スルニ華族ノ方カラ世襲財產ヲ設定シタイトカ、或ハ増加シタイト云フ申請ガアッテ初メテ許スト云フ主義ニナッテ居ル、併ナガラ華族世襲財產法ナルモノハ、其第一條ニ於テ修正案デハ明カニ——貴族院ノ修正案ニ於テハ「其資格ヲ維持スルニ必要ナル範圍内ニ於テ云々」ト云フ明文ヲ掲ゲテ、要スルニ華族ノ體面ヲ維持スルニ必要ナル一法トシテ認メテアル、果シテ然ラバ申請主義或ハ語ヲ換ヘテ申シタラバ、自由主義トデモ申シマセウカ、甚ダ其效果ガ如何デアラウカト思ハレル、寧ろ是ハ強制主義ニサレタ方ガ本法ノ目的ヲ達スルニ於テ極メテ必要デハナカッタラウカト思フ、尤モ華族ノ中ニハ財產ノ有ル者モアリ、又財產ノ無イ者モアッテ、一樣ニ世襲財產ナルモノヲ拵ヘルト云フコトハ、到底出來ナイデアラウト云フコトハ明カデアル、サリナガラ財產ノ有ル者ニ向ッテハ、其資格ヲ維持スルメニ強制シテ華族世襲財產ト云フモノヲ造ラセタ方ガ宜シクナラウカト思フ、何故ニ政府ハ強制主義ニ依ラズシテ申請主義——自由主義ニ依ッタデアルカ、其點ヲ伺ヒタイデアリマス

○政府委員(馬場鐵一君) 今ノ御尋ハ政府ハ何故ニ強制主義ニ依ラナカッタカ、自由主義即チ設定ハ有爵者ノ任意ト云フコトニシタカト云フ御質問ト心得マスカ、此世襲財產ノ制度ヲ眞ニ有效ニ爲スモノト致シマシテ、殊ニ華族ニ今日特權ノ如クニナッテ居リマスル以上ハ、特權デアルト同時ニ之ヲ義務トスルト云フコトモ確ニ一ツノ御説ト思ヒマスシ、サウ云フ議論ハ内部ニ無イデハナイデアリマス、併ナガラ他ノ國ノ例ヲ見マシテモ、ヤハリ世襲財產ヲ強制シテ居ル國ハ餘リ無イヤウニ承ッテ居リマスシ、又今日ノ實情ニ於キマシテ、華族ニ世襲財產ヲ必ズ設定セヨト云フコトハ、實際行ハレナイト云フ實情デアリマスカラシテ、任意ノ主義ヲ取ッタデアリマス、唯今尙御説ノ中ニ財產ノ有ル者ハ必ズヤラセルコトニシタラウカト云フ御説モアッダヤウデアリマスガ、財產ノ有無ト云フコトハ之ヲ嚴重ニ調ベルコトニナリマス、隨分ト人ノ家ノ内情ニモ立入ルコトデアリマシテ、之ヲ實行スルコトハ餘程困難ガアルヤウニ考ヘマス、而シテ一面ニ金ノ無イ者ガアル、金ガ有ルカ無イカ分ラナイ者ガアル、唯今ノ有ルコトガ——財產ノ有ルコトガ明瞭ナ者ダケニ付テ強制スルヤウナコトニナリマシテ、甚ダ其間公平ナ處置トモ考ヘラレマセヌカラ、財產ノ有ル者ハ成ベク世襲財產ヲ設定スルコトヲ——無論華族ノ監督ハ宮内省ニ於

テモ相當ニ獎勵シテ居ルコトヲ考ヘマスシ、又華族モ自己ノ家ノ將來ヲ考ヘマスナラバ相當世襲財產ヲ設定スル氣運ニ向フデアラウ、寧ろ強制ヒズニ置イタ方ガ宜カラウト云フ考カラ任意ニスルコトニ致シマス

○加瀬禮逸君 大體ニ付テ御尋ラシタイ、マダ法案全部ヲ通讀致シテ居リマセヌカラ、或ハ法文ニ規定シテアッテ御問スルコトヲ要セヌ事柄ニ屬スルカモ知レヌガ、第一ニ御尋シタイノハ華族世襲財產法ヲ改正シタル理由ヲ伺ヒタイ、斯ウ言フト甚ダ漠タル問デアリマスガ、華族世襲財產法ハ華族ノ家格トカ體面トカ云フモノヲ維持スル必要カラ出サレタモノデアリマセウケレドモ、華族ノ有スル財產中、法律ノ力ヲ以テ世襲物ヲ設定シテ、一般債權者ハ普通ノ場合ニ於テ法律ノ力ヲ以テ、或財產ニ立入リテ強制スルコトヲ得ルノ權利ヲモ此場合ニハ全ク殺ガレテ居ル、是ハ四民平等ノ原則ニ照ラセバ頗ル背理ノ立法デアルト云フコトハ、重大ナル非難ノアツタ點デアリマス、此權利思想ヲ——發達セル義務觀念ヲ貫クコトガ寧ろ自然ノ要求デアラナラバ、華族世襲財產制度ハ之ヲ撤廢スルヲ以テ適當ト思ヒマス、今般改正サレマシタノハ華族世襲財產制度ヲ廢スルト云フ前提ニ於テ改正ヲ企テアルデアリマス、ソレトモ華族財產制度ヲ家格ヲ維持スル上ニ於テ洵ニ缺クベカラザルモノデアル、將來此制度ヲ更ニ擴張シヤウト云フ御趣意カラ出タモノデアリマスカ、之ヲ一ツ御尋致シタイ、若シ華族財產制度ハ華族ニ一種ノ治外法權ヲ與フル制度ニシテ喜バザルモノデアラッテ、漸次撤廢スル前提トシテ出タモノデアレバ、債權者ノ爲ニハ現行ノ華族世襲財產法ト比シテ利益ヲ圖ラレタル箇條ガアリマスカ、アリマスレバドノ箇條カト云フコトヲ御示シテ願ヒタイデス

○政府委員(馬場鐵一君) 唯今加瀬サンノ御質問ハ、政府ハ將來華族世襲財產制度ヲ廢スルカ、或ハ擴張スルカドウ云フ考デアルカト云フコトガ、第一ノ御尋ト思ヒマスカ、政府トシテハ華族世襲財產制度ヲ廢スルト云フコトハ考ヘテ居リマセヌ、併ナガラ或ハ擴張スルカト云フ御話デゴザイマシタカ、擴張ノ意味ハ一般ノ人民ニト云フ意味デ仰有ッタノデスカ

○加瀬禮逸君 イヤ華族ノデス

○政府委員(馬場鐵一君) 華族世襲財產制度トシテハ、今日ノ改正案ガ今日ノ時世ニ於テハ最モ適當ナモノト考ヘテ勿論提出シタノデゴザイマスカラ、將來時世ノ變遷ガゴザイマスカ、固ヨリ改正ヲ加フベキ必要ガアラウト思ヒマスガ、今日ノ所デハ將來廢止ト云フコトヲ豫想セズシテ、世襲財產制度ト云フモノヲ維持シテ往ク上ニ於テ、此改正案ガ適當ナモノデアルト考ヘテ出シマシタノデゴザイマス、ソレト同時ニ唯今御話ノアリマシタ如クニ債權者トノ關係、是ハ世襲財產制度ヲ立テマシタ以上ハ、勿論債權者ニ對シテ世襲財產ノ差押ガ出來ナイトカ、其他債權者ト多クノ法律關係ガ起リマスガ、今日ノ改正案ハ、此世襲財產ヲ設定シマス當時ニ於テ、充分債權者ノ不利益ニナラヌヤウニ權利ヲ保護スルト云フコトニ就テ、充分ナル考慮ヲ加ヘタ積リデアリマス、世襲財產ヲ設定シマシテカラデモ、或ル特種ノ例ヘバ不法行為ニ依ル場合トカ、或ハ特別先取特權ト云フヤウナモノハ世襲財產ニ掛ッテ往ケルト云フコトニナッテ居リマスカラ、適當ナ範圍内ニ於テハ不當ニ債權者ヲ傷ケルト云フヤウナコトガナイヤウニ改正シタ積リデアリマス

○加瀬禮逸君 チョット確メテ置キマス、サウシマスト現行ノ華族世襲財産法ト改正案ト比較シマスレバ、債權者ノ利益ヲ圖ルニ意ヲ用ヰテアルノデスカ、此方ガ……

○政府委員(馬場鐵一君) 大體ニ於テ現行法ヨリハ不當ニ債權者ヲ害シナイヤウニ保護ヲ加ヘテ居ル、債權者ノ保護ト云フト少シ妙デスカ、債權者ノ權利ヲ害セヌト云フ考ヲ加ヘテ居ル、其點ニ於テハ現行法ヨリ進シテ居リマス

○米田實君 從來ノ華族世襲財産ヲ設定サレマシテ、其設定當時カラ今日マデニ差押ヲ受ケ、若クハソレヲ無クシタト云フヤウナモノハ、略シドノ位アリマスカ、唯今御記憶ナラハ……

○司法省參事官(山内隆三郎君) 私カラ御答致シマス、現在ノ世襲財産法ハ此案トハ少シ違ヒマシテ、總テノ債權者ハ世襲財産ヲ全部差押ヘルコトハ出來ナイ、尙世襲財産ハ已ムヲ得ザル場合アルト否トニ拘ラズ、之ヲ廢止スルコトモ出來ナイト云フコトニナツテ居リマスカ、世襲財産ガ差押ニ依ツテ無クナツタカ減ツタカ云フコトハナイト考ヘナケレバナラヌ、併ナガラ或ル一二ノ例ニ依リマス、世襲財産アルケレドモ之ヲ登記シテナイ部分ガ差押ヘラレテ、サウシテ競賣サレタト云フ例ハ一二アリマスカ、此世襲財産ガ差押ヘラレト云フヤウナコトハ、先ヅ餘リ見當ラザルコト、御承知ヲ願ヒタイ

○米田實君 世襲財産ハ差押ヘラレマセヌガ、現行法ニ依テモ其收益ノ三分ノ一ヲ差押ヘ得ルコトニナツテ居リマスカ、其收益ヲ差押ヘラレタル數ガドノ位アルカ

○司法省參事官(山田隆三郎君) ソレハ司法省デハ統計ハ取ツデアリマセヌノデス、世襲財産ノ收益ヲ差押ヘルコト云フヤウナコトハ餘リ起ラズニ、寧ロ質權デ質ニ取ツテ差押ヘルコトガ要ラヌヤウニ都合好ク運シテ居ル、統計ニ依ツテハ世襲財産ガドウト云フコトハ、今日迄統計ヲ取ル方針ニナツテ居リマセヌ

○法學博士政尾藤吉君 司法大臣ニ御尋シタイ、此華族世襲財産法ノ改正案ヲ政府カラ御出シニナルニ就テ、此法律制定ノ當時今日トテハ、社會事情ガ異ツテ居ルノデアアル、此法律制定ノ當時ニハ華族ト云ヘバ社會ノ最上級ノ者デアツテ、又財産ノ點ニ於テモ多ク最上級ノ者デアアル、今日ノ財産ノ方カラ云ヒマス、財産トカ家寶ヲ持ツテ居ルト云フヤウナ點カラ云ヒマス、華族以外ニモ社會ニ隨分大キナ財産ヲ持ツテ居リ、又貴重ナ家寶ヲ持ツテ居ル人も出來テ來タノデアアル、ソレカラ又現ニ貴族院ノ制度ニ於テモ、各府縣ノ多額納稅者カラ多額納稅議員ヲ出スコトヲ得ルヤウニシテアリマス、其制度カラ考ヘテ見マシテモ、當時今日トハ大ニ社會ノ事情ガ異ツテ居ルノデアアリマスカ、此改正ヲナサラスノナラ免モ角モゴザイマスカ、少シデモ改正ヲナサシマス以上ハ、此法律ノ資格ヲ單ニ有爵者トセズ、有爵者又ハ多額納稅者トカ、或ハ國稅一萬圓以上ヲ納メタル者トカ云フコトニシテ、社會ノ狀態ハ此法律制定ノ當時カラ大ニ異ツテ居ルト云フコトヲ認メラル、ト云フ御考ハ、政府ニ於テハアリマセヌカドウデスカ、ソレヲ御尋シタイ

○司法大臣(尾崎行雄君) 其點ニ就テハ範圍ヲ擴メルト云フ考ハ持ツテ居ラヌノデス、ヤハリ從來ノ通りニ置イテ然レベキコト、認メテ、前ノ通りニ致シテ居リマス

○法學博士政尾藤吉君 此世襲財産法ト云フモノハ、世襲財産トセザル所ノ財産ノ融通力ヲ制限スルノデアリマスカ、是ハ私ハ一般ノ人民ニ此法律ガ當該マルヤウニシテ

貫ヒタイト云フ希望デハナイノデスケレドモ、今日デハ華族以外ノ者デモ華族以上ノ財産ヲ有ツテ居リ、又華族以上ノ貴重ナ家寶ヲ有ツテ居ル者ガ隨分アルノデスカ、サウ云フ者ノ財産ノ一部分ヲ割イテ、サウシテ世襲財産トシテ永久ニ傳ヘテ行クト云フコトヲ得セシメルヤウニスルコトハ、社會政策ト云フ點カラ考ヘテ見テモ良イコトデヤラウト思フ政府ハドウ云フ御考デスカ

○司法大臣(尾崎行雄君) 其點ニ付テハ現在デハ——將來研究ヲシタ結果ト又ドウナルカ分リマセヌガ、現在ニ於テハ今日ノ區域ヲ擴ゲルト云フ考ハ定メテ居リマセヌ

○法學博士政尾藤吉君 此點ニ付テ御研究ニナリマシタカ

○司法大臣(尾崎行雄君) 考ヘテハ——未ダ研究中デ、考ヲ定メルマデノ研究ヲシテ居リマセヌ

○法學博士政尾藤吉君 御研究ニハナツテ居リマスカ

○司法大臣(尾崎行雄君) サウデス

○尾越辰雄君 私ハ公家トカ武家トカ云フ華族デナクシテ、所謂此表ニアリマス新列ノ華族ノ中ニ、世襲財産ヲ設立シタモノガアルカドウカ、アレバドノ位設定シタ者ガアルカト云フ表ヲ願ヒタイト思フノデアリマスカ——餘リ誤ト申シマス御手數ヲ煩ハシマスカ、極ク具體的ニ申シマス、例ヘバ三井トカ三菱トカ云フ、ア、云フ新列ノ華族デ金持ガ世襲財産法ヲ有難ガツテ、世襲財産ヲ拵ヘタカドウカト云フコトヲ見タイ、ソレハ唯今阿部君或ハ政尾君アタリカラノ御質問ノコトニ付キマシテ、少シ研究シテ見タイト思フ、尙簡易ニ申シマス、三井トカ三菱トカ、其他金持デ新列ノ華族ガアラウト思フ、サウ云フ人ガ財産ノ割ニドレタケ世襲財産ヲ拵ヘタカト云フコトデアリマス、ソレデハ兩家ダケノ分デモ差支アリマセヌ、三井家三菱家ダケノデモ——分ルコトデアレバ、是ハ彼等ノ世襲財産ヲ御調ニナツテ迷惑モ何モシマイト思フ

○政府委員(馬場鐵一君) 新列華族ノ中ニモ世襲財産ヲ制定シタモノガアルコト、及ビ其大體ノ數額等ハ先程御手許ニ廻シマシタ表デ御分リト存シマスガ、唯今ノ三井三菱ト云フコトニ付テハ唯今分ツテ居リマセヌ、併シ是ハ宮内省ノ方ニハ分ツテ居ラウト思ヒマス、若シ宮内省デ差支ナイ限リハ御示シガ出來ヤウト思ヒマス、唯私ノ記憶デハ三井三菱ニハナイヤウニ聞イテ居リマスガ、確カナコトハ分リマセヌ

○阿部德三郎君 チョット委員長ニ御尋シマスガ、是ハ大體ノ質問トソレカラ各條ノ質問ト別々ニサレル譯デアリマスカ、隨意ニ質問シテ差支アリマセヌカ

○委員長(古屋慶隆君) 別ニ其事ハ極クテ居リマセヌ、皆様ノ御協議ニ依ツテ、ドチラデモ宜シウゴザイマス、ドウデゴザイマス

(ソレデ結構デス)ト呼フ者アリ

○阿部德三郎君 ソレデハ第一條ニ付テ御尋シテ見タイ、第一條ハ貴族院デ修正サレテ居ルヤウデアリマス、即チ貴族院ノ修正ニ依レバ有爵者ハ其資格ヲ維持スルニ必要ナル範圍ニ於テ云々——資格ヲ維持スルニ必要ナル範圍ト云フコトハ頗ル漠然タルコトデアアル、デ華族ハ公侯伯子男ト五ツニ分レテ居ルノデアリマスガ、此資格ヲ維持スルニ必要ナル範圍ト云フト、政府既ニ御同意ニナツタ以上ハ大凡ノ御見當ガ付イテ居ランケレバナラヌト思フ、即チ公侯伯子男ト五ツニ分レテ居ルモノデアレバ、先ヅ公爵ハドノ位、

又下ッテ男爵ハドノ位ト云フヤウナ此ニ區別ガナケレバナルマイト思フガ、其等ニ對スル政府ノ所見ハドウアルカ、素ヨリ是ハ確然ト幾ラノト云フコトハツレハ言ヘマスマイケレドモ、免ニ角大凡ノ見當ハ付イテ居ナケレバナルマイト思フ、其點ノ御説明ヲ得タイ

○政府委員(馬場鐵一君) 第一條ノ家格ヲ維持スルニ必要ナル範圍ト云フコトニ付テ御答致シマスガ、是ハ唯今御述べニナッダ如ク貴族院ノ修正デアリマス、政府ノ提出ニハ其事ハナイノデアリマスガ、政府ノ提案ノ趣旨及ビ第一條ノ修正ニ政府ノ同意致シマシタ筋道ヲ御話致シマシタナラバ、自ラ御分リニナラウト存ジマス、政府提出案ニハ最少ノ限度モ最大限度モナイノデアリマス、併ナガラ世襲財產ト云フモノ、制度ノ根本ノ考カラ世襲財產ヲ設定スルニ付テハ——家實ハ別デアリマスガ、收益財產デアレバ其家ノ品位ヲ維持スルニ十分ナル財產ガ無ケレバ世襲財產タルモノトシテハ價值ノナイモノト考ヘテ居リマスカラ、極ク僅カノ財產ヲ世襲財產トシテ設定スルコトモ此目的ニ副ハナイノデアリマス、又非常ナ——全財產ヲ舉ゲテ世襲財產トスルコトハ是亦社會經濟上ノ弊害モ少カラヌコトニ考ヘマシテ、ツレハ適當ニ——實際ニ於テ宮内大臣ガ認可ヲ與ヘマス際ニ調節ヲ計ラウト考ヘマシテ、何等ノ限度ヲ示サナカッタデアリマス、然ル所ガ貴族院ニ於キマシテ、ツレハ成程サウ云フ實際ニハ調節ガ出來ルカモ知レヌケレドモ、如何ニモ全財產ヲ舉ゲテ世襲財產ニスルト云フヤウナコトガ法律上出來ナイコトハナイ、故ニ若シサウナルト社會經濟上非常ナ不融通ノ點ガアッテ弊害ガ非常ニ多イ、故ニ何カ限度ヲ置キタイト云フ所カラ、或ハ收益幾ラマデトカ、或ハ財產ノ二分ノ一デアルトカ、或ハ五分ノ一デアルトカ、イロノノ考モアッダヤウデスガ、結局數字のニ現ハスコトハ出來ナイ、ソコデ極ク——修正者モ漠然デハアルガ家格ヲ維持スルニ必要ナル範圍ト言ッタルバ、全財產ヲ舉ゲテ世襲財產ニスルヤウナコトハナカラウト云フ所カラ、其家格ヲ維持スルニ必要ナルト云フ修正ガ入ッタノデゴザイマスガ、是ハ公侯伯子男ト云フヤウナ爵ニ依ル格式ト云フヤウナ意味デハナクシテ、有爵者ノ其各自ノ家ノ品位ヲ維持スルト云フ意味デアル、斯ウ云フコトニ説明ガアリマシテ、隨ッテ公爵家ハ幾ラ或ハ伯爵家ハ幾ラト云フヤウナ意味ニハ非ズシテ、假令男爵家デアリマシテモ家ノ所謂品格ト云フカ——品位ト云フカ、格ガ非常ニ大キアル場合ニ於テハ、假令男爵家デモ數十万圓ヲ必要トスルトカ、又伯爵家デアッテモ暮シガサウ昔カラ豪イ暮シヲシテ居ラス、今日ニ於テモ大シタ暮シテナイト云フヤウナ所デアルト、伯爵デアッテモ低イト云フヤウナ譯デアリマス、洵ニ其家格ヲ維持スルト云フコトハ餘程困難ナ解釋ヲ起スダラウト思ヒマスガサウ云フ譯デアリマス、政府モ元々第一條ノ限度ハ設ケマセヌケレドモ、大體ノ考ハ付ケテ置キマシタカラサシタル不都合ハナイト云フ譯デ同意致シマシタ、唯今御話ノ如ク幾ラ公侯伯子男ニ依テ其額ヲ極メルト云フヤウナ考デナイノデス

○委員長(古屋慶隆君) 大分時間モ遅クナリマシタカラ、次會ニヤルコトニシテハ如何デスカ、又時間ハ公報ニテ御通知致スコトニ致シマス、是デ散會致シマス

午後三時十二分散會